会記・Proceedings

魚類学雑誌
53(2): 203

2007年度年会のお知らせ

2007年度年会の予定をお知らせします．詳細は2007年5月に出版される魚類学雑誌54巻1号に掲載します．

期　日：2007年10月5日（金）–10月8日（月）
　　5日　編集委員会・評議員会
　　6–8日　研究発表会・シンポジウム
会　場：北海道大学　学術交流会館
　　〒060–0808　札幌市北区北8条西5丁目

年会の開催に合わせて北海道大学COE主催シンポジウム"Micro and macro evolution of fishes"が10月4日–5日に開催される予定です．

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2007年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は下記の要領で申し込み書類を作成し，郵便で事務局までお送りください．会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので，あらかじめご了承下さるようお願いします．セッションの主旨については魚類学雑誌45巻2号の会記を参照してください．

申 込 先：〒625–0086　舞鶴市長浜
　　京都大学フィールド科学教育研究センター　舞鶴水産実験所
　　日本魚類学会庶務幹事　甲斐嘉晃
　　TEL: 0773–62–9079　FAX: 0773–62–5513
　　e-mail: mebaru@kais.kyoto-u.ac.jp
必要事項：(1) 和文標題，(2) 英文標題，(3) 企画者氏名，(4) 趣旨説明（1000字以内），(5) 演者と演題，(6) 連絡先住所・氏名（電話，ファックスおよびe-mail）．なお，標題や演者・演題は暫定案でも結構ですが，内容が明瞭にわかるようにして下さい．ただし，実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けて下さい．
申込締切：2007年1月31日

2006年度第2回幹事会

日　時：2006年4月3日　13:00–16:00
場　所：京都大学フィールド科学教育研究センター
出席者：松浦・西田・奥田・甲斐・波戸岡・北川

1. 会務報告　会長：希少淡水魚採集を行った者による入会手続きを拒否する学会方針案が評議委員会で諮問され，当該者の入会拒否が承認された．魚類学会の発展に大きく貢献した「魚の会」の箕島氏に，魚類学会から感謝状が贈呈された．
2. 現行の会則の問題点，特に入会拒否・除名に関する項目，会長・副会長の任期に関する項目，評議員会の議決権に関する項目，決算に関する項目について，議論を行った．これらの議論を踏まえて，次回幹事会で会則の改定原案を作成することが確認された．その他，会誌編集に関する状況報告や問題点を議論するために編集委員長の幹事会への出席を年1回程度依頼することが決定された．
3. 来年の国立科学博物館設立130周年記念事業に合わせて，2007年4月から2008年3月の期間に魚類学関係の国際シンポジウムが開催予定であるとの報告があった．学会への協力要請を評議員会に諮ることが議論された．
4. 会計幹事より，魚類学雑誌の広告集めの体制強化と広告掲載手続きの手順や方法に関する説明があった．
5. 2005年度収支決算報告を作成するにあたり，会計幹事から状況報告があった．
6. その他　今期の会計監査の候補者について確認し，評議員会へ諮ることとなった．今年度の学会賞に奨励賞3件，論文賞8件の応募があったことが報告された．大阪市立自然史博物館で行われる特別展「大和川の自然」への後援要請ついて，趣旨説明がなされ，魚類学会として後援することが確認された．前回の名簿発行が2005年度にずれ込んだことにより，今年度は名簿作成を行わず，来年度に作成することが確認された．年会の会告文の，他学会で発表した研究内容を当学会年会で発表できないとする表記について，改定が提案された．改定案は次回の評議員会で諮問されることとなった．

2006年度第3回幹事会

日　時：2006年8月21日　13:15–16:30
場　所：大阪市立自然史博物館
出席者：松浦・西田・奥田・甲斐・波戸岡・北川

1. 2006年度年会についての中間報告があった．参加申込み人数が集計され，参加費の振込遅延者が全体の1割弱（315人中27人）に及んだこと，さらに，1名については講演がキャンセル扱いとなったことが報告された．また，受付登録システムの運用やプログラム・講演要旨集の作成に問題が生じたため，年会終了後に年会事務局と国際文献を交えて意見交換を行うこととなった．
2. 昨年度からの懸案事項である希少淡水魚採集者の入会問題について，学会側からの入会拒否の通知の後，当人からも入会の意思がないことを表明する文書が届いたとの報告があった．
3. 採集における会員のモラル向上を目的として，注意喚起を促す文書を学会ホームページ，および魚類学雑誌に掲載す

るため，文案の作成を自然保護委員会に依頼することとなった．

4. 会則・細則の改定案が示された．特に，入・退会や除名に関する項目，会長の任期に関する項目，総会の役割，会長が職務を続けられなくなった場合の対処方法などの改定案について議論された．
5. 2007年度の予算案について説明があった．特に，名簿作成積立金の増額，年会時における学生会員への旅費援助の増額などが話し合われた．
6. 2006年度学会賞の受賞者が決定したことが報告された．また，応募・選考手続きや学会賞運営細則の問題点について議論された．
7. 今年度の評議員会・総会資料の準備状況について報告があり，2007年度の活動方針などについて話し合いを行った．
8. その他　男女共同参画に向けた委員会の設置準備として，年会時に女性研究者を交えた検討会を開くことが提案された．「年会開催のお知らせ」内の「研究発表に関する注意」における文言の修正を検討した。国立科学博物館の開館130周年記念行事の一環として，本会と共催の国際魚類シンポジウムを行うことを幹事会として了承し，評議員会に諮ることになった．

2006年度第4回幹事会

日　時：2006年9月11日　13:10–16:30
場　所：京都大学フィールド科学教育研究センター
出席者：松浦・西田・奥田・甲斐・波戸岡・北川・木村（編集委員長）

1. 編集委員長より，会員外の論文投稿受付可否に関する編集委員会の議論の経過が報告され，受付を認めた場合の長所・短所について議論を行った．同時に，超過頁代など会員と非会員での差別化を図る必要性が検討された．この件に関しては，今後さらに議論を重ね，慎重に対応することが確認された．また，ウェブ上の会員専用ページでの公開を行っている旧魚類学雑誌については一般公開ページへ，魚類学雑誌についても出版から4年以上たったものについては一般公開ページへ移行する案が提出された．その他，*Ichtyological Research*掲載論文の被引用およびダウンロードに関するデータの開示について，査読者の推薦・忌避に関する事項の投稿規定への明記について，電子ジャーナルの売上金（121,575円）について，電子ファイルの配布方法について，英文誌和文要旨の和文誌から学会ホームページへの移動について，*Ichthyological Research*および魚類学雑誌の電子アーカイブ化について，報告があった．
2. 2006年度第1回評議員会および総会の準備状況の確認を行った．評議員会・総会資料のそれぞれの項目について，内容，報告担当者，配分時間を確認した．
3. 2007年度収支予算案について，収入の部として刊行助成費を算出すること，支出の部として年会参加補助金，学会賞費，予備費を増額させることなどが確認された．また，次号魚類学雑誌の広告依頼の分担を行った．
4. 今年度の年会時に，女性研究者が中心になって男女共同参画に関する会合が開かれる予定であるとの報告があった．提出された意見に対する幹事会としてのサポート体制が確認された．
5. 学会賞選考委員会の運営細則の改定案（論文賞の数に上限を明記すること，および奨励賞受賞者の旅費に15万円の上限を設けること）について，評議員会から了承された旨，報告があった．今後，会員外の論文投稿を受け付けることになった場合の論文賞応募資格について，編集委員長を交えて議論を行い，将来的に応募資格の項の改定が必要であることが確認された．また，編集委員による論文賞推薦は，年会時に開催される編集委員会から準備を始めることとなった．
6. 標準和名検討委員会から会長宛に提出された答申「魚類の差別的和名の解消について」を検討し，会員内外に対して広くパブリックコメントを求めるよう標準和名検討委員会に依頼することとなった．
7. その他　日本魚類学会史委員会の活動旅費について，より多くの方々のインタビューを行う上で必要な経費として計上することを確認した．2007年度に開催が予定されている国立科学博物館の創立130周年記念シンポジウムの進め方について議論を行った．年会時のポスター賞について引き続き議論を行ったが，公平な選考基準や学会事務局側の負担など検討すべき課題が多く，来年度以降に申し送ることとなった．

2006年度年会

2006年度年会が2006年10月7日（土）–10月10日（火）に静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップにおいて開催され，以下の会合があった．

1. 2006年度第2回編集委員会

2006年10月7日（土）12:00–14:40に編集委員14名が出席して2006年度第2回編集委員会が開かれた．

2. 2006年度第1回評議員会

2006年10月7日（土）15:00–17:20に評議員28名（他に委任状11名）が出席して開催された．議長には南　卓志氏が選出された．議事は以下の通りで，報告及び答申，会則・細則改定案を含む来年度活動方針案を原案通り採択した．(1) 2005–2006年度会務報告，(2) 2005–2006年度編集報告，(3) 2005年度決算報告，同監査報告，および2006年度前期収支報告，(4) 2006年度総会以後および2007年度の活動方針（案），(5) 2007年度収支予算（案），(6) 自然保護委員会からの報告，(7) 標準和名検討委員会からの報告及び魚類の差別的和名の改称に関する答申，(8) 日本魚類学会史委員会からの報告，(9) 電子情報委員会からの報告，(10) 学会賞に関する報告，(11) 国際魚類シンポジウムについて（案），(12) 日本分類学会連合に関する報告，(13) 自然史学会連合に関する報告，(14) 今後の年会開催予定，(15) その他．今後の年会開催地は2007年北海道大学，2008年愛媛大学（高知大学黒潮研と共催），2009年度東京海洋大学に決定した．

3. 2006年度第1回総会

2006年10月8日（日）11:25–12:40．出席者129名．議長には南　卓志氏が選出された．議事は以下の通りであった．会則改定案は出席者の3分の2以上の賛成により原案通り採択された．(1) 2005–2006年度会務報告，(2) 2005–2006年度編集報告，(3) 2005年度決算報告，同監査報告，および2006年度前期収支報告，(4) 2006年度総会以後および2007年度の活動方針，(5) 2007年度収支予算，(6) 自然保護委員会からの報告，(7) 標準和名検討委員会からの報告，(8) 日本魚類学会史委員会からの報告，(9) 電子情報委員会からの報告，(10) 学会賞に関する報告，(11) 国際魚類シンポジウムについて，(12) 日本分類学会連合に関する報告，(13) 自然史学会連合に関する報告，(14) 今後の年会開催予定，(15) その他．

4. 日本魚類学会賞授賞式および奨励賞受賞講演

10月8日（日）12:40–13:10に日本魚類学会賞授賞式および奨励賞受賞講演がおこなわれた．論文賞は下記の2論文が受賞した．

・竹垣　毅・和田年史・兼森雄一・夏苅　豊．2005．有明海・八代海沿岸の河口干潟におけるムツゴロウの分布と生息密度．魚類学雑誌，52: 9–16.

・Kitagawa, T., S.-R., Jeon, E. Kitagawa, M. Yoshioka, M. Kashiwagi and T. Okazaki. 2005. Genetic relationships among the Japanese and Korean striated spine loach complex (Cobitidae: *Cobitis*) and their phylogenetic positions. Ichthyological Research, 52: 111–122.

奨励賞は井上　潤氏が受賞し，「ミトコンドリアゲノム全長配列に基づく下位条鰭類の系統解析と分岐年代推定」のタイトルで受賞講演が行われ約120名が参加した．

5. 旅費補助抽選会

学会賞受賞講演終了後，オークション売上金による旅費援助の抽選が行われ，28名の応募者の中から10名に20,000円ずつが授与された．

6. 2006年度第2回自然保護委員会

10月8日（日）12:47–14:25に自然保護委員会委員および各部会員19名が出席して2006年度第2回自然保護委員会が開かれた．

7. 研究発表会・市民公開講座

口頭発表第1会場・第2会場・ポスター発表第1会場・第2会場に分かれて185題の研究発表が行われた．参加者は開催期間を通じて約422名（内当日参加103名）であった．市民公開講座「干潟を守る—有明海をどう再生させるか」には100名が参加した．

8. 懇親会

懇親会は10月8日（日）19:00–21:00に東海大学海洋科学博物館で282名の参加者で盛大に開催された．

9. オークション

年会会場では書籍等のオークションが行われ，306,629円の基金を得ることができた．

10. 評議員会・総会抜粋資料

会員数（2006年7月現在）

	国　内	国　外	計
個人会員	1157 (+53)	104 (−44)	1261
名誉会員	5	5	10
団体会員	87	0	87
賛助会員	2	0	2
購　読	65	0	0
寄　贈	5	16	21

(　)内は2005年7月現在に対する増減会員数および入退会者の推移．

2005–2006年度編集報告

(1) 投稿論文

2005年：96篇（英文誌71篇、和文誌25篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類16；系統4；形態13；分布0；行動5；生態14；稚魚9；遺伝8；生理2

和文誌：分類7；系統0；形態3；分布3；行動2；生態3；稚魚2；遺伝1；生理2；その他2

2006年8月19日現在：74篇（英文誌54篇，和文誌20篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類11；系統0；形態7；分布0；行動7；生態7；稚魚12；遺伝7；生理2；組織1

和文誌：分類4；系統0；形態2；分布0；行動0；生態8；稚魚0；遺伝4；生理0；その他2

(2) 原稿受付から出版までに要する日数（原著論文）

英文誌（49巻1号から53巻2号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：152日；最長期間：1325日；各号の平均期間：328日（50巻2号）から462日（50巻4号）

和文誌（49巻1号から52巻1号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：166日；最長期間：733日；各号の平均期間：281日（49巻1号）から461日（51巻1号）

2006年度年会以降の活動方針

(1) 次期庶務幹事と会計幹事の候補

2008年度から庶務幹事を奥田　昇氏と甲斐嘉晃氏から竹垣毅氏と高橋　洋氏へ，会計幹事を波戸岡清峰氏，北川忠生氏から藪本美孝氏と須田有輔氏へ交代する．竹垣，高橋，藪本，須田氏からは内諾が得られている．なお，引継ぎの関係から，竹垣氏には2007年度から就任して頂く．

(2) 会計監査の候補

2008年度から会計監査を林　公義氏，佐野光彦氏から須之部友基氏，岡部　久氏に交代する．須之部氏，岡部氏からは内諾が得られている．

(3) 選挙関係

2007年度に行う選挙は以下の通り．

・会長選挙（2008–2009年度）

・評議員選挙（2008–2011年度）

(4) 旧魚類学雑誌と魚類学雑誌のウェブ上での公開方法について

現在は魚類学会ホームページの会員専用ページで公開を行っているが，旧魚類学雑誌については一般ページへ，魚類学雑誌についても出版から4年以上たったものについては一般ページへ移行する．なお，*Ichthyological Research*については，一般に開放しない．

(5) 会則・細則の変更について

大きな変更点については以下の通り．

・入会を希望する個人の資格を明確にし，場合によっては，入会を拒むことができるようにすること

・会員であっても，会員としてきわめて不適当な行為を行ったものを除名することができるようにすること

・会長・副会長の任期に制限を設けること

日本魚類学会2005年度収支計算書

〔2005年1月1日から2005年12月31日〕

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	予算−決算
会費	12,590,000	13,455,549	−865,549
正会員会費	10,500,000	11,429,000	−929,000
団体会員会費	1,050,000	1,296,000	−246,000
賛助会員会費	40,000	60,000	−20,000
外国会員会費	1,000,000	670,549	329,451
購読料	120,000	164,350	−44,350
広告収入	120,000	0	120,000
著者負担印刷代	880,000	1,032,000	−152,000
刊行助成費	0	3,300,000	−3,300,000
市民公開講座助成金	—	1,260,000	−1,260,000
雑収入	500,000	1,254,542	−754,542
入会金	50,000	0	50,000
自然保護委員会積立金戻入収入	0	0	0
オークション積立金取崩収入	200,000	200,000	0
名簿積立金戻入収入	700,000	0	700,000
会誌発行引当金戻入収入	0	0	0
特別収入（和解金）	—	67,382	−67,382
当期収入合計	15,160,000	20,733,823	−5,573,823
前年度繰越金	10,999,404	10,999,404	0
合計	26,159,404	31,733,227	−5,573,823

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	予算−決算
会誌発行費	9,700,000	9,492,725	207,275
英文誌	6,510,000	6,510,000	0
和文誌	2,840,000	2,685,259	154,741
編集費	350,000	297,466	52,534
名簿作成費	1,000,000	352,800	647,200
会誌発送費	950,000	1,029,632	−79,632
役員会合費	40,000	36,743	3,257
シンポジウム費	200,000	200,000	0
消耗品費	10,000	0	10,000
通信費	300,000	27,600	272,400
諸印刷費	50,000	254,974	−204,974
年会運営費	250,000	250,000	0
年会参加補助金	200,000	200,000	0
年会参加・発表Web登録経費	200,000	220,815	−20,815
ホームページ維持・更新費	200,000	142,737	57,263
学会賞費	200,000	228,540	−28,540
各種委員会活動費	200,000	200,000	0
人件費	20,000	48,000	−28,000
旅費	750,000	863,415	−113,415
業務委託費	2,600,000	2,788,140	−188,140
什器備品費	100,000	938,845	−838,845
協賛金	60,000	58,340	1,660
雑費	100,000	122,760	−22,760
国際会議繰入金	10,000	0	10,000
自然保護委員会積立金入金	0	127,837	−127,837
会誌発行引当金	0	825,000	−825,000
名簿作成積立金	200,000	647,200	−447,200
オークション積立金	0	221,738	−221,738
市民公開講座実施費	—	1,262,042	−1,262,042
予備費	100,000	0	100,000
雑損失	—	121,437	−121,437
当期支出合計	17,440,000	20,661,320	−3,221,320
次年度繰越金	8,719,404	11,071,907	−2,352,503
合計	26,159,404	31,733,227	−5,573,823

貸借対応表

2005年12月31日
(単位：円)

資産の部 科目	金額	負債・正味財産の部 科目	金額
流動資産		流動負債	
普通預金	3,047,812	未払費用	499,731
郵便振替	18,023,320	前受会費	8,039,000
定期預金	2,661,508	会誌発行引当金	1,725,000
未収金	641,528	名簿作成積立金	847,200
		国際会議繰入金	1,564,788
		オークション積立金	305,433
		自然保護委員会積立金	321,109
		負債合計	13,302,261
		次年度繰越金	11,071,907
		前年度繰越金	10,999,404
		当年度収支差額	72,503
		正味財産合計	11,071,907
合計	24,374,168	合計	24,374,168

財産目録

2005年12月31日
(単位：円)

資産の部

科目	摘要	金額
流動資産		
普通預金	三菱東京UFJ銀行江戸川橋支店	2,770,300
	三菱東京UFJ銀行春日町支店	277,512
郵便振替	高田馬場郵便局	18,023,320
定期預金	三菱東京UFJ銀行春日町支店	2,661,508
未収金	著者負担印刷代(2004年度以前)	24,000
	著者負担印刷代(2005年度分)	312,000
	オークション売上	221,738
	定期購読	83,790
合計		24,374,168

負債の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
流動負債		
未払費用	業務委託費及び会誌発送費	499,731
前受会費	2006年度以降年会費	8,039,000
会誌発行引当金		1,725,000
名簿作成積立金		847,200
国際会議繰入金		1,564,788
オークション積立金		305,433
自然保護委員会積立金		321,109
合計		13,302,261

正味財産の部

科目	摘要	金額
前年繰越金		10,999,404
当年度収支差額		72,503
合計		11,071,907

2006年度上半期試算表

科目	2006年度予算額 借方	2006年度予算額 貸方	2006年6月30日現在 借方	2006年6月30日現在 貸方	説明
現金					
普通預金（三菱東京UFJ／江戸川橋）			1,159,588		
普通預金（三菱東京UFJ／春日町）			486,462		
郵便振替			13,765,915		
定期預金（三菱東京UFJ）			2,662,148		
未収入金			150,000		
前払費用			0		
未払費用				0	
前受会費				125,977	
仮受金				0	
会誌発行引当金				1,725,000	
名簿作成積立金				847,200	
国際会議繰入金				1,564,788	
オークション積立金				305,433	
自然保護委員会積立金				321,109	
前期繰越金				11,071,907	
小計			18,224,113	15,961,414	
会費		12,670,000		11,406,000	
正会員会費		10,890,000		9,999,000	当年度9,739,000円／過年度260,000円
団体会員会費		1,050,000		828,000	当年度612,000円／過年度216,000円
賛助会員会費		40,000		40,000	当年度40,000円
外国会員会費		690,000		539,000	当年度497,000円／過年度42,000円
購読料		120,000		191,995	電子ジャーナル購読料（シュプリンガー）他
広告料収入		120,000		60,000	
著者負担印刷代		1,000,000		108,000	
刊行助成費		3,300,000		0	（7月14日に入金済）
雑収入		500,000		16,612	利息，著作権使用料
オークション積立金取崩収入		200,000		0	
名簿積立金戻入収入		0		0	
会誌発行引当金戻入収入		825,000		0	
会誌発行費	9,700,000		6,708,730		
英文誌	6,510,000		6,510,000		IR53-1～4
和文誌	2,840,000		0		
編集費	350,000		198,730		
名簿作成費	0		0		
会誌発送費	950,000		166,800		
役員会合費	50,000		0		
シンポジウム費	200,000		0		
消耗品費	50,000		0		
通信費	400,000		29,650		
諸印刷費	150,000		27,635		
年会運営費	250,000		0		
年会参加補助金	200,000		0		
年会参加・発表Web登録経費	300,000		0		
ホームページ維持・更新費	200,000		0		
学会賞費	200,000		0		
各種委員会活動費	350,000		200,000		自然保護委員会シンポジウム（6月開催）
人件費	20,000		0		
旅費	950,000		661,720		幹事会，第1回編集委員会，学会賞選考委員会
業務委託費	2,350,000		1,645,248		1–4月分
什器備品費	100,000		0		
協賛金	60,000		0		
雑費	150,000		80,125		クレジット手数料，振込手数料等
国際会議繰入金	10,000		0		
自然保護委員会積立金入金	0		0		
会誌発行引当金	825,000		0		
名簿作成積立金	200,000		0		

2006年度上半期試算表（続き）

科目	2006年度予算額		2006年6月30日現在		説明
	借方	貸方	借方	貸方	
オークション積立金	0		0		
予備費	100,000		0		
小計	17,765,000	18,735,000	9,519,908	11,782,607	
合計			27,744,021	27,744,021	

2007年度収支予算

（2007年1月1日から2007年12月31日）

収入の部　（単位：円）

科目	05年度予算案	06年度予算案	07年度予算案	備考
会費	12,590,000	12,670,000	12,712,000	2006年6月末会員数参照
正会員会費	10,500,000	10,890,000	10,990,000	1,157名×10,000×95％
団体会員会費	1,050,000	1,050,000	996,000	87団体×12,000×95％
賛助会員会費	40,000	40,000	40,000	2件×20,000×100％
外国会員会費	1,000,000	690,000	686,000	104名×7,000×95％
購読料（バックナンバー収入含）	120,000	120,000	400,000	
広告料収入	120,000	120,000	180,000	
著者負担印刷代	880,000	1,000,000	1,000,000	
刊行助成費	0	3,300,000	3,300,000	
雑収入	500,000	500,000	500,000	著作権料，年会余剰金等
入会金	50,000	0	0	
自然保護委員会積立金戻入収入	0	0	0	
オークション積立金取崩収入	200,000	200,000	200,000	
名簿積立金戻入収入	700,000	0	547,200	
会誌発行引当金戻入収入	0	825,000	825,000	
当期収入合計	15,160,000	18,735,000	19,664,200	
前年度繰越金	10,999,404	11,071,907	12,041,907	
合計	26,159,404	29,806,907	31,706,107	

支出の部　（単位：円）

科目	05年度予算案	06年度予算案	07年度予算案	備考
会誌発行費	9,700,000	9,700,000	9,700,000	
英文誌	6,510,000	6,510,000	6,510,000	IR54-1～4（650万円＋予備）
和文誌	2,840,000	2,840,000	2,840,000	魚雑54-1,2
編集費	350,000	350,000	350,000	編集費
名簿作製費	1,000,000	0	1,000,000	調査費，印刷費
名簿発送費			160,000	学会誌と別発送
会誌発送費	950,000	950,000	1,000,000	学会誌（IR、魚雑）発送費
役員会合費	40,000	50,000	50,000	
シンポジウム費	200,000	200,000	200,000	2007年年会事務局へ
消耗品費	10,000	50,000	10,000	
通信費	300,000	400,000	100,000	
諸印刷費	50,000	150,000	150,000	主に封筒代
年会運営費	250,000	250,000	250,000	2007年年会事務局へ
年会参加補助金	200,000	200,000	400,000	2007年年会参加補助金（例年の倍額）
年会参加・発表Web登録経費	200,000	300,000	300,000	2007年年会用
ホームページ維持・更新費	200,000	200,000	200,000	
学会賞費	200,000	200,000	300,000	2007年度副賞と受賞後援者の交通費
各種委員会活動費	200,000	350,000	350,000	
人件費	20,000	20,000	50,000	05実績（編集作業補助）
旅費	750,000	950,000	1,000,000	役員会，学会賞委員会，編集委員会　等
業務委託費	2,600,000	2,350,000	2,800,000	05実績および広告手数料分の増加を考慮

2007年度収支予算（続き）

支出の部　　（単位：円）

科目	05年度予算案	06年度予算案	07年度予算案	備考
什器備品費	100,000	100,000	100,000	年会時プロジェクターレンタル料
協賛金	60,000	60,000	60,000	日本動物分類学会連合　等
雑費	100,000	150,000	150,000	各種手数料
国際会議繰入金	10,000	10,000	0	
会誌発行引当金	0	825,000	825,000	刊行助成費の1/4
名簿作製積立金	200,000	200,000	0	
自然保護委員会積立金	0	0	0	
オークション積立金			0	
雑損失	0	0	0	
予備費	100,000	100,000	509,200	年会Web登録システム修正などを検討中
当期支出合計	17,440,000	17,765,000	19,664,200	
次年度繰越金	8,719,404	12,041,907	12,041,907	
合計	26,159,404	29,806,907	31,706,107	
当期概算収支差額	−2,280,000	970,000	0	

2006年度第1回日本魚類学会標準和名検討委員会

日　時：2006年7月31日　13:20–17:00
場　所：京都大学総合博物館
出席者：瀬能，佐藤，中坊，木村，櫻井

1. 差別的魚名の改称案および答申案について

1) 答申案採決までの手順
8月中に会長宛に答申案を提出し，幹事会が評議員に対して事前周知を行う．採決は10月7日の評議員会で行う．事前採決を行うかどうかは幹事会にまかせる．
2) 答申案の告知および周知
10月8日の総会で一般会員からの同意を求め，その後ポスター会場に答申および改名案を掲示する．
3) パブリックコメント
魚類学会会員を対象としたパブリックコメントを年内に求める．窓口は学会HP上に委員長名で設置する．
4) 最終決定は2007年1月末とする．
5) 和文誌54巻1号に答申と改称を掲載する．この場合，原稿は2007年3月末までに編集委員会へ送付する．決定後の周知については動物園水族館協会，博物館協会，マスコミ，ダイビング雑誌・アクアリウム雑誌・釣り雑誌，その他関連するメーリングリスト等で行う．
6) メキシコメクラウオとメクラサケスズキについては根拠となる標本を指定する．メキシコドウクツウオについては櫻井氏に標本の入手を依頼する．

2. 水族館で展示される海外の魚類の和名命名の必要性についての進捗状況

1) 動物園水族館協会からの正式なオファーを学会宛に行うための調整を進める．
2) 日本に分布しない魚類に対する標準和名については必要に応じて命名するという当委員会の意見表明が必要であり，この件については引き続き議論を継続する．

2006年度第1回日本魚類学会自然保護委員会

日　時：2006年7月2日　09:00–13:00
場　所：東京海洋大学魚類学研究室ゼミ室
出席者：後藤，瀬能，佐野，鈴木，淀，渡辺，吉野，加納，丸山，前畑，松浦，小早川，田北，細谷，中井，杉山，向井

1. 2006年度公開シンポジウム「生息場所の劣化が沿岸魚類群集に与える影響—現場からの報告」の総括

出席者は87名，要旨集の販売部数は86部であった．広報に問題はなかったと思われるが，一般市民の参加が少なかった．本学会の公開シンポジウムでは初めて，沿岸海洋における生息環境の劣化とそれによる魚類群集への影響の問題が具体的な事例に基づいて論議された点でたいへん意義があったと評価された．今後のシンポジウムでは，保全方策も含めた地域のケーススタディを話題としてとりあげてもよいかもしれない．アンケートは実施すべきであった．

2. 2005年度第2回（通算第9回）委員会（2005年9月23日）以降の活動報告について

1) 希少タナゴ類の採集行為者に対する対処については，自然保護委員会の意向が評議員会で承認され，行為者に対して文書での通知を行った．今後，会則の改正と告発者への報告を行う．
2) 沖縄県石垣市のリゾート開発に関する「米原の自然を愛する会」からの協力依頼については，影響を直接受ける河川の基礎データがないため，地元の研究者を紹介し，具体的な相談があればできる限り対応する．
3) 河口湖漁協のバスの湖面養殖のその後の経緯について報告され，山梨県からの許可は下りないことが確認された．
4) 奈良県池原ダム湖におけるオオクチバスの有効利用に関する問題については，今のところ沈静化しており，議会で採択された有効利用の決議は取り下げられる見込みであること，ニジマスの漁業権が4月に新規に取得されていることが報告された．七色ダムを含めてフロリダバスの調査が進んでおり，自然保護委員会としては今後ダムの管理責任を問う意見書を提出する．
5) 2006年1月29日に琵琶湖博で開催された「琵琶湖を戻す会」によるシンポジウム「第1回外来魚情報交換会」の経緯と内容について報告があった．外来魚問題の学会レベルでの啓発が継続的に必要との観点から，「かしこい（上手な）魚とのつきあい方」のようなイメージの出版企画（ビデオ，PPTファイル，CD，DVD等も含む）を助成金の獲得も含めて検討する．
6) 2006年度公開シンポジウム「市民講座　干潟を守る—有明海をどう再生させるか」については，科研費への応募が採択された．
7) 本委員会委員の矢野和成氏のご逝去については，自然保護委員会名義で弔電を送付した．
8) 伊自良湖のコクチバス問題については行政と連携をとりながら自然保護委員会として対応し，繁殖阻止と流出防止を目的とした防除を実施しており，今後も継続することが報告された．
9) 山形県某所における道路建設計画に伴う希少淡水魚類の保全に関する要望書を6月12日付けで同県河川国道事務所宛に提出した．
10) 特定外来生物の三次指定に向けて，特にブラウントラウトの現状についての認識が示された．
11) その他
西表島のリゾート開発や公共工事，エコツアーの急増について現状報告があり，行政との直接会見の必要性が示された．

3. 今後の活動課題と計画について

1) 2006年度公開シンポジウム「市民講座　干潟を守る—有明海をどう再生させるか」については，広報に工夫する（例えば一般向けのタイトルを付ける），保護団体等の機関誌への掲載，HPでのリンク等を依頼する．学会後も九州地区で関連イベントを開催する（例えば北九州市立自然史博物館）などの案が出された．
2) 来年度公開シンポジウムのテーマと開催場所については，来

年度年会開催予定地が札幌であることを考慮し，テーマについてはMLで議論する．

3) 委員人事

矢野委員（希少海産魚問題検討部会）の逝去に伴い，工藤孝浩氏（神奈川県水産技術センター）を補充とすることで了承された．佐野委員（希少海産魚問題検討部会）は今年度で退任し，年会時に委員を補充する．後藤委員の委員長としての任期を今年度一杯とし，後任については年会時に決定する．

4) 各部会における活動予定

希少淡水魚問題検討部会から，環境省版RDBの進捗状況とイタセンパラの放流報道問題についての経過報告がなされた．また，今年度の2回のシンポジウムを通じて部会として何をすべきかを整理する．希少海産魚問題検討部会では，海産魚のレッドデータ度の現状把握とデータベース構築を目指す．

5) その他

日本学術会議からの科学者のモラルに関するアンケートに対する回答を行った．外来生物法を受けての福岡県の動向について報告された．秋田県産ゼニタナゴの生息地保全を目的としたイベントについて報告された．滋賀県の「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」のリーフレットについて説明があった．

2006年度第2回日本魚類学会自然保護委員会

日　時：2006年10月8日　12:47–14:25

場　所：静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ10階会議室1003

出席者：後藤，谷口，渡辺，中井，丸山，吉野，前畑，杉山，田北，佐野，加納，森，淀，細谷，瀬能，小早川，鬼倉，佐原，向井

1. 2006年度第1回（通算第10回）委員会以降の活動報告

1) 魚類学会員を名乗る人物による希少淡水魚類の不当な採集行為について

採集行為告発者に対して，これまでの学会側の対応経過と最終的な結果報告が行われた．

2) 年会時シンポジウム「市民公開講座　干潟を守る—有明海をどう再生させるか」の準備状況

公開講座開催当日以外の写真展の開催は，管理者不在のため展示品への損傷が危惧されることから中止となった．2007年1月19日から1月28日までの期間，別途開催予定の写真展についての説明がなされ，主催は九州地域の実行委員会であり，自然保護委員会はその後援をすることが確認された．

3) 伊自良湖（岐阜県山県市）のコクチバス問題への対応について

長良川水系への拡散防止を第一義とし，春先には越流堰から流出防止のための若齢魚の捕獲と繁殖阻止を実施した．駆除に伴うコクチバスの持ち出しを抑止する目的で立て看板の設置を行う．ダム施設改修のため10月下旬からダムが水抜きされるため，それと合わせた駆除を行い，ダム内のコクチバス，オオクチバス，ブルーギルの撲滅を目指す．

4) 山形県某所に係る希少淡水魚類およびその生息地の保全を求める要望書に伴うその後の動向について

自然環境検討委員会が設置され，9月19日に第1回委員会が開催された．調査の中身は分類群ごとに決めることとし，魚類では今後1年間，生息地における定点・定期調査と任意調査を行うことになった．

5) 奈良県池原ダムの管理責任を問う意見書の提出について

経緯をみながら情報収集を続けることとする．

6) イタセンパラの保護にかかわる要望書の提出について

魚類学会から要望書を提出することとする．その際にはイタセンパラ保全研究会からの要望書を参考資料として添付する．

7) モラルのある淡水魚採集について

モラルある淡水魚採集についての原案が示された．

8) 岡山県産タナゴ類の琵琶湖（西の湖）への移殖放流問題について

遺伝的なかく乱防止の観点から委員会として実施者への説明を行うこととする．

9) 長野県漁場管理委員会への意見書提出について

キャッチアンドリリースの禁止等，凍結されている外来魚対策を早急に実施するよう要望書を提出することとする．

10) 特定外来生物三次指定の方向について

当委員会は原則として2004年8月1日付けで提出した「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に関する意見および特定外来生物・未判定外来生物に選定すべき魚類の提案」に沿って対応していくこととする．懸案となっているブラウントラウトについても同様とし，引き続き関係各分野からの情報収集を行う．

2. 今後の活動課題と計画について

1) 2007年度の公開シンポジウムの企画について

年会時のシンポジウムについては札幌での開催を考慮し，「川の自然生態系と在来魚を守る—知床を含む北海道の現状と将来（仮題）」（於北大学術交流館（予定））とする提案がなされた．その場合，北海道淡水魚保護ネットワークへの協力要請を行うが，科研費の申請は魚類学会が単独で行うこととする．夏前のシンポジウムに関しての提案（放流問題や外来生物法施行5年後を見据えてなど）はMLで行うこととする．

2) 委員長の交代，および委員の補充などの人事

委員長の後任ならびに今期で退任する佐野委員の後任についてはML上で決定する．

3. その他

1) 濃尾平野のイタセンパラの現状について

壊滅的な状況にあることから学会としてなんらかの措置を行うこととする．